

令和3年度 初任者研修講座

学習指導案(例)集

算数・国語・外国語・理科



県央教育事務所 指導課

学習指導案について

“よい授業”は、教師が意図をもつことから始まります。“よい授業”を実践するためには、その意図に基づいて様々な準備をして、しっかりとした計画を立てる必要があります。それらの内容をまとめたものが「学習指導案」であり、研究授業の1単位時間の準備のためだけに作成するものではありません。単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して作成することが大切です。また、学習指導案には、授業に対する指導者の意図等を他の教職員に伝えるという役割もあります。

学習指導案に記述する内容について

県央教育事務所の初任者研修では、“よい授業”を児童・生徒にとっての「わかる」授業ととらえ、その準備のためには次のような内容について情報や知識を整理したり、教師の考えをまとめたりしておく必要があると考えています。

学習指導案(例)での記述箇所

① 授業を行う日時・場所や対象学級などの情報

※参観者のある場合には、日時や場所等を正確に記述しましょう。

「1 日時」

「2 学年・組・場所」

② 授業を行う単元(教科によっては題材)での指導内容と、学習指導要領との関連

※学習指導要領を根拠に、この単元(題材)で児童・生徒が何を学ぶのか、何ができるようになるのか、その教育的価値や位置づけ、教師のとらえを書きましょう。

「3 単元(題材)名」

「4 単元(題材)について

(1)単元(題材)観」

③ 児童・生徒の、その単元(題材)の内容に関わる実態把握

※それまでの学習の様子から掴んでいる付けたい力に関わる児童・生徒の状況や、事前に調査をしてわかったことなどを整理し、その単元(題材)の指導をする上で把握しておくべきことをまとめましょう。

「4 単元(題材)について

(2)児童・生徒観」

④ 単元(題材)の指導についての、授業者(教師)の考え

※その単元(題材)の学習をとおして児童・生徒に付けたい力を付けるための具体的な手だてや工夫についてまとめましょう。

⑤ 単元(題材)の目標・評価規準・指導と評価の計画

※その単元(題材)の目標、評価規準を明らかにした上で、単元(題材)全体の指導過程を構想します。
※評価の観点の内容を適切にとらえ、単元(題材)全体を見通した評価の場面や方法を工夫しましょう。
※単元(題材)の評価計画では、単元(題材)の評価規準に照らして、各単位時間のねらいにふさわしい観点を精選して計画に位置付けます。

⑥ 本時の目標・評価規準・展開

※授業の目標を具体的に表します。その目標を実現した児童・生徒の姿をその評価規準とし、そこに至るために最適な学習活動を設定しましょう。
※展開の中に評価の観点・場面・方法を明記し、指導と評価を関連付けて考えるようにしましょう。

「4 単元(題材)について
(3)指導観」

「5 単元(題材)目標」

「6 単元(題材)の評価規準」

「7 単元(題材)の指導・評価計画」

「8 本時の指導

(1)目標

(2)実現状況を判断する際の具体的な児童・生徒の姿と、目標実現を目指すための手だて

(3)展開」

学習指導案作成のための参考資料

以下の資料を参考にするとよいでしょう。

学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価(神奈川県教育委員会作成)

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6679/>

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

「学習評価の在り方ハンドブック(国立教育政策研究所作成)

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

教育課程編成の指針(幼稚園、小学校、中学校)平成30年1月(神奈川県教育委員会作成)

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/kyouikukateisisinn.html>

学習指導案を活用しよう

「学習指導案」をもとに授業を行った後に、自分で気付いたことや参観者等からのアドバイスをまとめたり、その単元（題材）の別の単位時間に対する修正点などをメモしておいたりして、その後の授業改善に役立てる材料としても活用しましょう。

この冊子の学習指導案例は、県央教育事務所の初任者研修及び1年経験者研修における研究授業で作成する学習指導案を想定しています。参考にしてください。

《《《学習指導案（例）の記載について》》》

学習指導案（例）では、注意点を『吹き出し』で示しています。

- どの教科にも共通する内容の注意点は、
右のように実線の吹き出しを使っています。

(例)

教科によっては、単元でなく題材の場合もある。

また、教科によって異なる内容の注意が加わる場合は、次のように吹き出しの中で * を付けて示しています。

(例)

学習指導要領の文言を踏まえて、単元（題材）に合わせた言葉で示す。指導書の文言を丸写しにせず、「4. 単元（題材）について」に沿って目標設定をする。
* 目標の絞り込みのため1つか2つに。

- 教科の特性によるその教科だけの注意点は、
右のように点線の吹き出しで示しています。

(例)

* 作品名だけを単元名にしない。

算数科学習指導案（例）

〇〇〇立〇〇小学校
指導者 〇〇 〇〇 印

1 日 時 令和〇年〇〇月〇〇日（〇） 第〇校時（〇:〇〇～〇:〇〇）

2 学年・組・場所 第1学年〇組（〇〇名）教室

3 単 元 名 たしざん

教科によっては、単元でなく題材の場合もある。

（1）単元観では、この単元で何を学ぶのか、何ができるようになるのか、その教育的価値や位置づけ、教師の捉えを書く。これらについて学習指導要領を根拠とし、その該当箇所を明らかにして記述する。

4 単元について

（1）単元観

学習指導要領において、第1学年で学習する加法の指導事項は、減法の指導事項とともに「A（2）加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

（イ）加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

（ウ）1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

（エ）簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。」

と示されている。本単元で学習する「たしざん」は、5～6月に続き第1学年では2回目の加法の学習となる。5月には「いくつといくつ」で10までの数の構成を、6月には「あわせていくつ ふえるといくつ」で加法の意味と和が10以内の計算について学習している。したがって、本単元では、上記のアの（ウ）を中心に学習することになる。

また、本単元では、数学的活動として「ウ 算数の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動」を意識し、既習事項である「10の構成」をもとに、ブロック操作などを活用しながら、基礎的な計算技能の力とともに計算の仕方を考え説明できるようにする。加えて、既習事項を次の学びや実生活の中で生かすことができるような学習場面を意図的に設定することにより、学んだことを実際に使うことよきを感じることができるようにする。そのために、「10とあといくつ」という数の見方をしっかりと身に付けさせるとともに、その後の学習においても活用できるようにすることを意識した丁寧な指導が大切となる。計算の基礎となる技能とともに、計算の仕方を考える上で重要な数の見方をしっかりと身に付け、その後の算数の学習に意欲的に取り組めるようにするために、大変重要な単元である。

（2）児童観は、（1）単元観に記載した内容を指導するにあたっての児童の実態把握である。これまでにどのような力を付けてきたのか、今どのような力が足りないのかなど、本単元で付けたい力に関わる児童の状況をできるだけ具体的・客観的に記述する。必要があれば、事前にアンケート・小テスト等の調査をしてもよい。

（2）児童観

9月実施のアンケートでは30名中27名が「足し算が好き」と回答している。6月のアンケ

ートでは「足し算が好き」なのは22名であったので、5名増えている。この結果から、算数の学習が進むにつれ、多くの児童が加法計算を理解し、自信を持って課題に取り組めるようになってきていると考えられる。文章問題を解く場面では、苦手意識からか集中できなくなってしまう児童も2名いるが、ブロックなどの具体物を活用し、個別に指導すると取り組むことができるようになってきている。また、正解できると次第に意欲的になっていく様子も見られる。

「いくつといくつ」(5月に学習)と、繰り上がり・繰り下がりのない1位数どうしの「たし算」「ひき算」(6月に学習)の定着についての調査結果は以下のとおりである。

◎ 「いくつといくつ」(調査数 30名)
・ 6～9の分解 20問の平均点 ……94.3点/100点
・ 10の補数 10問の平均点 ……96.3点/100点
◎ 「たし算 50問」(調査数 30名)
・ 平均点 ……98.3点/100点
◎ 「ひき算 50問」(調査数 29名)
・ 平均点 ……97.1点/100点

本単元では、計算についてこれまで学習した内容をもとに、繰り上がりのある加法の計算の仕方を「10のまとまり」を意識して考え理解した上で、加法計算の習熟を図る。この調査結果から、本単元の学習は大多数の児童にとって無理のないものになると思われる。しかし、加法計算に苦手意識をもっている児童もいることから、適切な復習と支援の機会を設ける必要があると考えている。

(1) 単元観と(2) 児童観をふまえ、この単元の学習をとおして児童に「付けたい力」を付けるための具体的な手だてや工夫について記述する。

(3) 指導観

加法計算の仕方を、既習事項を基に考えることができるようにするためには、本単元の前に学習した10までの数の構成や、繰り上がり・繰り下がりのない加減の計算などの内容の定着度が大きく影響する。9月の調査では高い定着度が見られたが、本単元までに1ヶ月ほど経っているので、基本事項を全体で確認してから、主となる学習活動に入るような授業展開とする。また、加法の意味や繰り上がりについて、計算ブロック等の操作をとおして理解し、既習事項である「10の構成」を活用し、「10のまとまり」を意識してその計算の仕方を説明する学習活動を行う。以前に学習したことが役立つ経験をすることで、学ぶことのよさを感じられるようにする。加えて、「計算ができる」ようになるだけでなく、「計算の仕方を説明できる」ようになることで、学習内容の理解を確実にする。計算が特に苦手な児童については、机間指導の際に個別支援の機会を設けるとともに、計算の仕方を考える場面で「10のまとまりを作ればよい」等のよい気づきが見られたら、機を逃さずに認め、自信と意欲を持たせたい。

さらに、単元末では計算カードを用いた「おおきさくらべ」や「かあどとり」、「びんご」など児童が楽しめるような学習活動をとおして計算の習熟を図り、児童全員が積極的に計算に取り組めるようにする。また、計算カードを並べて気付くことを発表させる学習活動も行い、数や式についての感覚を豊かにして、本単元の後に学習する繰り下がりのある減法の学習につなげたい。

学習指導要領の文言を踏まえて、単元等に合わせた言葉で記述する。指導書の文言を丸写しにせず、育てたい資質・能力の三つの柱から「4. 単元について」に沿って目標設定をする。

5 単元目標

- (1) 1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算の場面を立式したり、式を読み取ったりでき、その計算が確実にできる。 [知識及び技能] ア(イ)(ウ)
- (2) 1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算の意味や仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力] イ(ア)
- (3) 1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算に親しみ、学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

単元目標を実現できたと判断する児童の具体的な姿を書く。

「挙手の回数が多い」や「忘れ物が多い」などの形式的態度を評価するものではない。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①加法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ③1位数と1位数の加法計算が確実にできる。	①1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、具体物や図などを利用して表現している。 ②日常生活の問題を、加法を活用して解決している。	①既習事項を生かし、繰り上がりのある加法計算を学ぼうとしている。 ②繰り上がりのある加法計算の習得に向け、楽しみながら粘り強く取り組もうとしている。

・次の①から③の内容をすべて含め、単元の目標や単元の学習内容に応じて、その組合せを工夫する。なおく（ ）内の言葉は例である。

- ①粘り強さ〈積極的に・進んで・粘り強く 等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって・学習課題に沿って・今までの学習を生かして 等〉
- ③他の2観点において重点とする内容

ここでは、「学びに向かう力、人間性等」のうち、観点別で見取ることができる「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

単元目標や指導計画のねらい・評価規準と一貫性・整合性をもたせる。

7 単元の指導・評価計画（12時間扱い）

観点別に【○】や【・】を付けることで、単元全体の指導と評価のバランスを確認できる。

単元を進める中で、記録として残す場面の評価と、指導の振り返りに生かすための評価の場面を計画的に設定する。

【○】記録に残す評価 【・】指導に生かす評価

時	ねらい	学習活動	知	思	態	評価規準
1	○1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法について考え、計算する。	・場面を読み取り、立式する。 ・ $9 + 4$ の計算の仕方を考える。 ・加数分解による計算方法をまとめる。	知	思	態	思-① 繰り上がりのある加法の計算について、数の構成や10の補数に着目して考えている。(観察)
2		・被加数が9の場合の計算練習に取り組む。				態-① これまでに学習したことを思い出しなが繰り上がりのある計算の仕方を考えようとしている。(観察)
3	○1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算で、被加数に応じて分解する計算方法を考え、計算する。	・被加数が8、7の場合の計算について考える。 ・加数分解による計算方法について理解を深める。	知	思	態	知-③ 被加数が9の場合の加数分解による計算ができる。(ワークシート)
4						知-① 被加数に応じて、加数を分解することを理解している。(観察)
						思-② いろいろな場面で、加法計算を用いて、考えている。

具体的な学習活動について、児童の立場から記述する。

「6単元の評価規準」よりも、さらに具体的に記述する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習に取り組む。 ・文章題を解決する。 	○		(ノート・観察) 知 一③ 加数分解による計算が確実にできる。 (ワークシート)
5 本 時	○1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を読み取り、立式する。 ・$3+9$の計算の仕方を考える。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・思一① 1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算で、具体物などを使いながら「10のまとまり」を意識して被加数分解し計算する方法について考えている。 (ワークシート)
本時の表示を太字で記載する。					
6	○1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習に取り組み、被加数を分解して計算する方法についても理解する。 	・	○	<ul style="list-style-type: none"> ・知一① 被加数分解による計算について仕方を理解している。(ワークシート) ・態一① これまでに学習したことを生かしながら繰り上がりのある計算の仕方を考えようとしている。(観察)
2観点設定した場合は、それぞれについて評価規準を記載する。					
7	○いろいろな場面において、加法計算を用いて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常場面を想定した文章題を解決する。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・知一①② 加法が用いられる場面を理解し、式に表すことができる。(ノート・プリント) ・思一② 加法計算を用いて考えている。(ノート)
8 9 10 11 12	○意欲的に加法の計算に取り組もうとし、計算力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・計算カードを用いたいろいろな活動をとおし、繰り上がりのある1位数どうしの加法計算の練習をする。 	・	○	<ul style="list-style-type: none"> ・知一③ 繰り上がりのある1位数と1位数の加法計算が確実にできる。 (ワークシート) ・態一② 計算カードを用いたいろいろな活動を楽しみながら、粘り強く取り組もうとしている。(観察)

「思考・判断・表現」・「主体的に学習する態度」は後半にかけての高まりが予想されるので、終盤に【○】の評価の機会として設定する。

本時において「付けたい力」が付いた児童の姿を想定して、できるだけ具体的な言葉にして記す。
 「7 単元の指導・評価計画」の該当する時間と整合させる。

8 本時の指導 (5/12)
 (1) 目標

○1位数と1位数の繰り上がりのある加法計算で、「10のまとまり」を意識して被加数分解し計算する方法について考えている。

手だてを具体的に記載する。

(2) 実現状況を判断する際の具体的な子どもの姿と、目標実現を目指すための手だて

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した児童への具体的な手だて
思考・判断・表現	1 位数と 1 位数の繰り上がりのある加法計算で、被加数分解して計算する方法と、加数分解による方法との関連を「10 のまとまり」を意識して考えている。	1 位数と 1 位数の繰り上がりのある加法計算で、具体物などを使いながら「10 のまとまり」を意識して被加数分解し計算する方法について考えている。	1 位数と 1 位数の繰り上がりのある加法計算で、被加数分解して計算する方法について、ブロック図やブロックの実物を一緒に確認したり、操作したりしながら、「10 のまとまり」を意識して考えられるようにする。

指導計画に設定した評価の観点を記載する。2 観点ある場合は、それぞれについて記載する。

単元目標や指導・評価計画、評価規準と一貫性・整合性をもたせる。評価計画の本時と同じ文言でもよい。

(3) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点	評価 (観点・場面・方法)
はじめ	1 加数を分解して計算する方法を復習する。	<ul style="list-style-type: none"> 計算の方法を確認しながら、さくらんぼの計算式を板書する。 「10 のまとまり」を意識することで計算しやすくなることを確かめる。 	
なか	2 主問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 場面から、加法であることを確認し、立式させる。 加数の方が被加数よりも大きい数になったことを捉えさせる。 	
	3 めあてを示す。	<p>たまごは全部でいくつかな？</p> <p>3 + 9 のけいさんのしかたをかんがえましょう。</p>	
	4 ブロックを操作しながら計算の仕方を考え、ワークシートに色をぬる。	<ul style="list-style-type: none"> 加数を分解する方法と被加数を分解する方法があることを児童の活動からおさえ、どちらも「10 のまとまり」をつくらうとしていることに気付かせる。 「10 のまとまり」をより簡単につくことを意識させる。 	<p>☞ 1 位数と 1 位数の繰り上がりのある加法計算で、具体物などを使いながら「10 のまとまり」を意識して被加数分解し計算する方法について考えている。(ワークシート)</p> <p>〈手だて〉</p> <p>1 位数と 1 位数の繰り上がりのある加法計算で、被加数分解して計算する方法について、ブロック図やブロックの実物を一緒に確認したり、操作したりしながら、「10 のまと</p>
	5 考えを説明し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方を隣同士やグループで説明させることで、理解を深められるようにする。 	

課題は絞り込んで、児童にわかりやすく具体的な言葉で記述する。

「おおむね満足できる (B)」をこの欄に書く。

「努力を要する (C) と判断した児童への具体的な手だて」をこの欄に書く。

			まり」を意識して考えられるようにする。
ま と め	ちいさいほうのかずをわけて、「10のまとまり」をつくと、けいさんしやすい。		
	6まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい方の数を分けることで、「10のまとまり」をつくりやすい場合があることを、さくらんぼ計算で確かめる。 ・練習問題に取り組みせ、確認する。 	

評価欄の記号及び記述について

- ・評価の観点は、次のように記載する。[知 思 態]
- ・ () には、どのような方法で評価するのかを記入する。
例 (発言・観察) (ワークシート) 等

国語科学習指導案（例）

〇〇〇立〇〇小学校
指導者 〇〇 〇〇 印

1 日 時 令和〇年〇〇月〇〇日（〇） 第〇校時（〇：〇〇～〇：〇〇）

2 学年・組・場所 第4学年〇組（〇〇名） 教室

*** 単元名には、育てたい
資質・能力の内容を示す。**

3 単元名・教材名 場面と場面をつなげて読み、考えたことを話そう
「白いぼうし」あまんきみこ（光村図書 4年）

教科によっては、単元
でなく題材の場合も
ある。

**（1）単元観では、この単元で何を学ぶのか、何ができるようになる
のか、その教育的価値や位置づけ、教師の捉えを書く。
これらについて学習指導要領を根拠とし、その該当箇所を明らか
にして記述する。**

4 単元について

（1）単元観

本単元では、学習指導要領に示す第3学年及び第4学年〔知識及び技能〕（1）言葉の特徴や使い方に関する事項、「ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。」と〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の指導事項、「イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。」と「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。」を学習する。

「白いぼうし」は、ファンタジー的要素を含んだ教材であるため、児童は登場人物の行動や会話、場面の様子などから豊かに想像力を働かせながら、自分の考えや感想を持つことができる教材である。

そこで、本単元では、場面や登場人物の様子に着目しながら読ませ、その中で自分が不思議に思ったことなどを整理し、それをグループでの話し合いをとおして、改めて自分の考えの根拠となる叙述を基に感想や考えをもつ力を付けたいと考える。

また、学習過程で、音読する場面を適宜取り入れることで、文章全体の構成や内容の大体を捉えさせたり、登場人物の様子や場面とのつながりを意識させたりすることも併せてねらうことができると考える。

（2）児童観は、（1）単元観に記載した内容を指導するにあたっての児童の実態把握である。これまでどのような力を付けてきたのか、今どのような力が足りないのかなど、本単元で付けたい力に関わる児童の状況をできるだけ具体的・客観的に記述する。必要があれば、事前にアンケート・小テスト等の調査をしてもよい。

（2）児童観

本単元で扱う〔知識及び技能〕に関する事項（1）言葉の特徴や使い方に関する事項について、第3学年「詩のくふうを楽しもう」を扱った際には、文章全体として何が書かれているのか大体を捉えながら音読することができた児童が多い。また、〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」の指導事項について、3学年「ちいちゃんのかげおくり」を扱った際には、登場人物の気持ちを行動や会話などに着目して感想を書いたり、「モチモチの木」を扱った際には、登場人物の気持ちの変化と場面の移り変わりに着目しながら自分の考えをまとめたりしてきた。これらの学習を通じて登場人物の行動や気持ちなどについて、物語全体を見通して複数の叙述を基に描写を捉えながら、感想や考えを書くことができた児童が多い。

その一方で、物語や文章を読む際に、全体として何が書かれているのかを意識して音読することや、感じたことや考えたことを書いたりすることに苦手意識をもつ児童が数名いる。一文一文の表現だけではなく文章全体を意識した音読の仕方や叙述に基づいて自分の感想や考えをまとめる指導の継続が必要である。

(1) 単元観と(2) 児童観をふまえ、この単元の学習をとおして児童に「付けたい力」を付けるための具体的な手だてや工夫について記述する。

(3) 指導観

単元をとおして「登場人物の行動や気持ちについて叙述に着目して読み、感想や考えをもつ」ことを意識させたい。「登場人物の行動や気持ちを表す叙述」を捉えるために、登場人物の行動や会話、境遇や性格など複数の叙述に着目させ、自分の体験や既習内容と結び付けながら疑問に思うことや考えをもたせる。例えば、「どうして女の子は消えてしまったのか、不思議だな。」という疑問に対して、「この場面で、女の子が急いでいる様子がわかる言葉があるから、もしかしたら・・・」、「こちらの場面で女の子の様子もつなげて考えてみると・・・」など、登場人物の行動や場面の様子に着目して、関連付けながら感想や考えをまとめていく。

自分が疑問に思うことや考えなどを書いたり発表したりすることについて苦手意識をもつ児童には、これらの学習活動を充実させることで、自分の思ったことや考えたことを「友達に伝えてみたい」「友達はどう感じたのか聞いてみたい」という思いをもたせることができるようになる。そして友達と感想を交流し、自分の考えを広げたり、深めたりすることの楽しさやよさを実感することにより、主体的に学習に取り組む態度を養うこともできるものとする。

単元の導入では、「学習計画ワークシート」を用いて、この単元で付けたい力を明確に示し、学習計画を知らせ、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

また、音読では、文章全体で書かれていることを意識したり、登場人物の様子などに着目したりしながら大体を捉えることができるよう、全体や個々などその取組方法も実態に応じて工夫していく。

さらに、疑問点や考えを交流する際には、理由とともに無理なく考えを述べ合い意見交換ができる、3人程度の学習グループを設定する。このグループのメンバーは固定ではなく、2回編成することにより、多くの感想や考えを知ることができるようにする。そして、グループでの話し合いを通して、改めて理解した文章の内容や考えの根拠をもとに、自分の感想や考えをもたせていきたい。

なお、作者「あまんきみこ」の他の作品を学級文庫に置き、単元の導入時に児童に紹介するとともに、単元の学習と関連させながら、他作品に触れることを促し、豊かな叙述を味わわせたい。

学習指導要領の文言を踏まえて、単元等に合わせた言葉で記述する。指導書の文言を丸写しにせず、育てたい資質・能力の三つの柱から「4 単元について」に沿って目標設定をする。

*** この単元では「思考力・判断力・表現力等」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の中から、「読むこと」に絞り込んでいる。**

5 単元目標

- (1) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。 [知識及び技能] (1) ク
- (2) 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1) イ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1) オ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、叙述を基にした自分の感想や考えを書いたり発表したりして、伝え合おうとする。 [学びに向かう力, 人間性等]

国立教育政策研究所の参考資料では、「学びに向かう力, 人間性等」については、学習指導要領に記載されている当該学年の学年目標を記述するとなっているが、本指導案(例)集では、本単元において、育てたい資質・能力に絞り記述している。

「単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考に位置付ける。」

6 単元で取り上げる言語活動

- ・登場人物の行動や気持ちについて、物語の叙述を基にして考えたことや感じたことを文章にまとめたり発表したりする。 (関連：言語活動例イ)

7 単元の評価規準

単元目標を実現できたと判断する児童の具体的な姿を書く。

「挙手の回数が多い」や「忘れ物が多い」など形式的態度を評価するのではない。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。	①「読むこと」について、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもっている。 ②「読むこと」について、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えている。	①学習の見通しをもち、進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って、自分の感想や考えを書いたり発表したりしようとしている。

次の①から④の内容をすべて含め、単元の目標や単元の学習内容等に応じて、その組合せを工夫する。なおく) 内の言葉は例である。

- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容
- *④当該単元の具体的な言語活動

ここでは、「学びに向かう力、人間性等」のうち、観点別で見取ることができる「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

単元目標や指導計画のねらい・評価規準と一貫性・整合性をもたせる。

8 単元の指導・評価計画（7時間扱い）

観点別に【○】や【・】を付けることで、単元全体の指導と評価のバランスを確認できる。

単元を進める中で、記録として残す評価の場面と、指導の振り返りに生かすための評価の場面を計画的に設定する。

【○】 記録に残す評価 【・】 指導に生かす評価

時	ねらい	学習活動	知	思	態	評価規準
1	○本単元で付けたい力等を知り、単元全体の見通しをもつ。 具体的な学習活動について児童の立場から記述する。	・「場面と場面をつなげながら考えたことを話し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・人物の様子を表す言葉に気をつけて音読する。			・	態-① 学習課題を理解し、単元全体の見通しをもとうとしている。
2	○場面と登場人物を整理し、中心となる人物の様子を捉える。	・場面と登場人物を整理し、中心となる人物の様子に気をつけて音読する。	○		・	知-① 場面や中心となる登場人物の様子に気をつけながら音読している。（観察） 態-① 場面や登場人物の様子などに着目して、印をつけたり、書き込んだりし

「7 単元の評価規準」よりも、さらに具体的に記述する。

2 観点設定した場合は、それぞれについて評価規準を記載する。

3	○深めたい問いを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不思議に思ったことを交流し合い、考えを深めたいことを問いの形にする。 		・		<p>ている。(ノート・観察)</p> <p>思－① 交流を通して、自分の考えを深める問いをもっている。(ノート・観察)</p>
4 ・ 5 本 時	○登場人物の行動や気持ちを捉え、自分の考えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いにつながるのありそうなことについて、色やにおい、登場人物の様子などを表す言葉に着目して考える。 ・ 学習グループで話し合い、友達の見解から自分の考えを整理する。 	○	・		<p>知－① 各場面や登場人物の様子など、様々な描写に着目しながら音読している。(観察)</p>
					○	
6 ・ 7	○グループ発表で自分の考えを伝えるとともに、それを通して改めて自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いについて、自分の考えを学習グループで発表し合う。(グループを2回変える。) ・ グループ発表をとおして改めて自分の問いについて考えたことをまとめる。 ・ 単元の学習のふり返りをする。 		○	○	<p>態－① 叙述を基に捉えた自分の考えなどを発表しようとしている。(観察)</p> <p>思－① 場面毎のつながりを考えながら捉えたことを基に自分の問いについて考えている。(ノート・観察)</p>

本時の表示を太字で記載する。

「思考・判断・表現」・「主体的に学習する態度」は、後半にかけての高まりが予想されるので、終盤に【○】の評価の機会として設定する。

「主体的に学習に取り組む態度」は、単純に初発の感想を書かせたものだけで評価することがないようにするとともに、単元全体をとおして児童の質的な深まりや高まりで評価できるように指導する。

本時において「付けたい力」が付いた児童の姿を想定して、できるだけ具体的な言葉にして記す。
「8 単元の指導・評価計画」の該当する時間と整合させる。

9 本時の指導 (5 / 7)

(1) 目標

登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に自分の考えをもつ。

手だてを具体的に記載する。

(2) 実現状況を判断する際の具体的な児童の姿と、目標実現を目指すための手だて

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した児童への具体的な手だて
思考・判断・表現	場面ごとの叙述やつながりに注目し、考えの根拠となる部分を明確にしながらか、自分の考えをもっている。	場面ごとの叙述やつながりに注目しながら、自分の考えをもっている。	登場人物の行動や気持ちが表示されている描写を教師と一緒に確認したり、友だちの考えを聞いたりし、自分はどのように考えたか、声掛けをしながら支援する。

指導計画に設定した評価の観点を記載する。
2 観点ある場合はそれぞれについて記載する。

単元目標や指導・評価計画、評価規準と一貫性・整合性をもたせる。評価計画の本時と同じ文言でもよい。

(3) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価 (観点・場面・方法)
はじめ	1 本時の学習課題を確認する。	・前時までの学習をふり返り本時の学習に意欲をもたせる。	課題は絞り込んで、児童にわかりやすく具体的な言葉で記述する。
	問いについて、話し合いをとおして自分の考えを深めよう。		
なか	2 問いについて前時までに考えたことを、グループで話し合う。 3 問いについて、自分の考えを整理する。	・登場人物の行動や気持ちが変わる描写をはっきりさせながら自分の考えを述べさせる。 ・考えた内容について、自分と同じ観点か違う観点かに気を付けながら話し合わせる。 ・友達の考えを聞いて、もう一度読み返して確認したり他の見方はないか考えさせたりする。	「おおむね満足できる (B)」をこの欄に書く。 [思] 場面ごとの叙述やつながりに注目しながら、自分の考えなどをもっている。(ノート・観察) <手だて> 登場人物の行動や気持ちが表示されている描写を、教師と一緒に確認したり、友だちの考えを聞いたりし、自分はどのように考えたか声掛けをしながら支援する。
まとめ	4 本時の学習のふり返りをする。	・問いについて、叙述を基に自分の考えがしっかりもてたところと、まだ考えが不十分なところを把握できるようにふり返らせる。	「努力を要する (C) と判断した児童への具体的な手だて」をこの欄に書く。

評価欄の記号及び記述について
 ・評価の観点は、次のように記載する。[知 思 態]
 ・() には、どのような方法で評価するのかを記入する。
 例 (発言・観察) (ワークシート) 等

外国語（英語）科学習指導案（例）

〇〇〇立〇〇中学校
指導者 〇〇 〇〇 印

1 日 時 令和〇年〇〇月〇〇日（〇） 第〇校時（〇：〇〇～〇：〇〇）

2 学年・組・場所 第1学年〇組（〇〇名） 教室

3 単 元 名 Unit 6 「A speech about My Brother」【New Horizon English Course 1
東京書籍】

教科によっては、単元でなく題材の場合もある。

（1）単元観では、この単元で何を学ぶのか、何ができるようになるのか、その教育的価値や位置づけ、教師のとらえを書く。これらについて学習指導要領を根拠とし、その該当箇所を明らかにして記述する。

4 単元について

（1）単元観

外国語科の目標には「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とあることから、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の4技能5領域を、3年間をとおして総合的に育成することが必要である。また、実際にコミュニケーションを図る場合は、これらの技能を場面に応じて統合的に活用しながら、相手と意思の伝達を行っていることから、単元の学習においても、4技能5領域の統合的な言語活動を取り入れていくことが、コミュニケーション能力の育成には効果的な手段であると考えられる。さらに、4技能5領域の統合的な言語活動をとおして、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育成していく必要がある。

本単元では、自分の友達にインタビューをした結果を発表するといった活動をとおして、最終的な目標を「事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。」と設定した。この単元では、「聞く」などの評価も考えられるが、「話すこと[発表]」において、「クラスのメンバーに伝わるように、友達について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話している」状況を評価する。

また、生徒の多様な家族状況に配慮しながら自分の友達や家族といった身近な人を取り上げることで、より興味を持って学習を進められることにも期待したい。

学習指導要領の関連内容は、次のとおりである。

1 目標

（4）話すこと [発表] 話すこと[発表]

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や、文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

（2）生徒観は、（1）単元観に記載した内容を指導するにあたっての生徒の実態把握である。これまでにどのような力を付けてきたのか、今どのような力が足りないのかなど、本単元の学習で付けたい力に関わる生徒の状況をできるだけ具体的・客観的に記述する。必要があれば、事前にアンケート・小テスト等の調査をしてもよい。

（2）生徒観

生徒は小学校の外国語活動・外国語で「コミュニケーションを図る素地や基礎を育成する」という目標のもと英語に親しんで、アクティビティやインタビューなど様々な言語活動を経験してきているため、自分の気持ちを簡単な文で話したり、ALTと会話したりするといった活動に慣れている。また、これ

までの学習で、簡単な語句や文を用いて即興で尋ねたり答えたりする活動をすることで、コミュニケーションを図る技能を身に付けてきた。しかし、他の生徒のスピーチを参考に、自分の考えや気持ちを整理して「まとまりのある」スピーチをする経験はまだない。

外国語を話すことに対して苦手意識をもつ生徒に対しては、個別指導や支援の機会を増やすことにより、発音練習や英文による自己表現活動に積極的に取り組み、学習に対する姿勢が少しずつ前向きになるなど、効果が表れている。

単元開始前に実施した外国語の学習に関するアンケート調査では、次のような結果が得られた。

・外国語の学習でどんな学習が好きか、アンケート調査結果

【まとまりのある英語を聞くことが好きか】

「好き」20人、「まあまあ好き」11人、「あまり好きではない」3人、「きらい」2人

【簡単なスピーチをすることは好きか】

「好き」6人、「まあまあ好き」14人、「あまり好きではない」12人、「きらい」4人

【英語を用いて文を書くことは好きか】

「好き」8人、「まあまあ好き」11人、「あまり好きではない」12人、「きらい」5人

この結果から、全体として、次のような傾向が見られる。

「聞くこと」～ある程度、意欲的に取り組むことができている。

「話すこと」「書くこと」～苦手意識を感じている生徒が半数近くいると考えられる。

今回のアンケートでは、前回アンケートを行ったときよりも、外国語の学習に対して「好き」「まあまあ好き」と答えた生徒が増えている。この理由として、授業中の言語活動をとおして、外国語への関心が高まったり、理解が深まったりしたことがあげられる。

(1) 単元観と(2) 生徒観をふまえ、この単元の学習をとおして生徒に「付けたい力」を付けるための具体的な手だてや工夫について記述する。

(3) 指導観

コミュニケーション能力の基礎を養う過程において、4技能を統合的に関連付けた言語活動は必須であるが、本単元では、「話すこと」のうち特に「一つのテーマに沿った発表をしたり、内容に一貫性があるスピーチをしたりすること」に重点を置き、事実や自らの考え、気持ちなどを整理して相手に伝える「話すこと〔発表〕の技能」を育成する。本単元ではスピーチの原稿を作成することになるので、「書くこと」等他領域の評価規準を設定することも考えられるが、ここでは記録に残す評価としない。

現状では教科書の表現をそのまま使って書いたり話したりしている状況が多いので、友達のスピーチやインタビューで分かったことを整理して書かせることで、生徒の表現の幅を広げたいと考えている。その際、これまでの授業で書きためてきた、「英語表現ノート」を積極的に活用させたい。

また、すでに知っているつもりでいた友達の隠れた魅力について「クラスのメンバーに伝える」という活動を取り入れることで、自分だけが知った事実や情報をクラスの人に「伝えたい」という思いを持たせるようにする。

学習活動の中では、お互いのスピーチを聞き合う活動を繰り返し行う。活動していく中で「自分の家族や身近な人のことについてどのような人が伝えたいのに、うまく話せなかった」という経験を活かし、最後の発表に向けて生徒の意欲を引き出していきたい。さらにスピーチを聞く人の関心を引くような、英文モデルや会話モデルを提示したり、英語表現ノートの活用を再度促したりするなど、自分の感じたことや考えを整理して、まとまりのある文で相手に伝えるために、必要な語彙や表現方法を工夫する状況をつくり、発表の内容をより豊かなものとさせたい。

なお、スピーチが原稿を読み上げる形の発表にならないよう、本単元ではタブレット端末を活用して自分のスピーチの様子を客観的に見ることで、相手意識を持ってスピーチしているかを確認し、フィードバックすることで聞く人に伝わるようなスピーチを意識づけさせたい。

本単元の最終ゴールはクラスでの発表になるが、他の生徒の模範になるようなスピーチを行った生徒については、文化祭で発表の場面を設けることにより、クラスのメンバーだけでなく、多くの人に聞いてもらうことを意識した活動にしたいと考えている。

学習指導要領の文言を踏まえて、単元等に合わせた言葉で記述する。指導書の文言を丸写しにせず、育てたい資質・能力の三つの柱から「4. 単元について」に沿って目標設定をする。

5 単元（題材）目標

○クラスのメンバーに伝わるように、友達の隠れた魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

単元目標を実現できたと判断する生徒の具体的な姿を書く。

「挙手の回数が多い」や「忘れ物が多い」など表面的態度を評価するのではない。

6 単元の評価規準（「話すこと（発表）」）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 三人称単数現在形の平叙文の特徴やきまりを理解している。 ② 三人称単数現在形などを用いて、友達などについて話されるスピーチの内容を聞き取ったり、友達などの趣味について尋ね合って、理解したことを伝えたりする技能を身に付けている。	① 家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。	① 家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。

基本的に「思・判・表」と一体的に評価

ここでは、「学びに向かう力、人間性等」のうち、観点別で見取ることができる「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

国立教育政策研究所の参考資料では、「思考・判断・表現」の評価規準について、

- ・【目的等】に応じて、【話題】について【簡単な語句や文】を用いて話している。」を基本的な形とし、それをうけて「主体的に学習に取り組む態度」については
- ・【目的等】に応じて、【話題】について【簡単な語句や文】を用いて話そうとしている。」を基本的な形として設定する流れを例として紹介している。

「主体的に学習に取り組む態度」については、挙手の回数、性格や行動面の傾向を評価するのではなく、教科の評価の観点の趣旨に照らし、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするための意思的な側面を評価する。そのため評価計画や本時の授業展開において、上記ふきだしにあるような「粘り強さ」や「調整力」を意識し、それが評価される場面を設定することで、生徒の姿を捉えるようにする。

単元目標や指導計画のねらい・評価規準と一貫性・整合性をもたせる。

単元を進める中で、記録として残す場面の評価【○】と、指導の振り返りに生かすための評価【・】の場면을計画的に設定する。

観点別に【○】や【・】を付けることで、単元全体の指導と評価のバランスを確認できる。

7 単元の指導・評価計画（7時間扱い）

【○】 記録に残す評価 【・】 指導に生かす評価

時	ねらい	学習活動	知	思	態	評価規準
1	○家族や身近な人の好きなことを話したり、聞き取ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の内容を理解する。 教師やALTのスピーチを聞いて、単元の最後にクラスの友だちについてスピーチをすることを知る。 教科書の本文を参考に、自分の家族の名前や趣味などについてスピーチをする。 <p>I have a brother. He is five years old. He is good at singing.</p>	・		・	<p>知-① 三人称単数現在形の平叙文の特徴やきまりを理解している。 (ワークシート)</p> <p>態-① ・家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。 (活動の観察)</p>
<p>具体的な学習活動について、生徒の立場から記述する。</p>						
2	○家族や身近な人についてペアの相手に伝えたり、相手が話している人物がどんな人か、話の概要を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家族がどんな人か伝えるために、習慣や様子について話す。 相手の家族の習慣や様子について、スピーチから概要を捉える。 	・			<p>知-① 三人称単数現在形の平叙文の特徴やきまりを理解している。 (活動の観察)</p> <p>知-② 三人称単数現在形などを用いて、友達などについて話されるスピーチの内容を聞き取ったり、友達などの趣味について尋ね合って、理解したことを伝えたりする技能を身に付けている。 (活動の観察)</p>
3	○家族や身近な人の趣味や習慣等について伝えたり、相手が話している人物について、概要を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 家族や身近な人がどのようなことをしているか伝える。 相手の家族や身近な人がどのようなことをしているか、その人についてのスピーチを聞いたりして概要を捉える。 	○			<p>知-① 三人称単数現在形の平叙文の特徴やきまりを理解している。 (後日ペーパーテスト)</p> <p>知-② 三人称単数現在形などを用いて、友達などについて話されるスピーチの内容を聞き取ったり、</p>

					<p>友達などの趣味について尋ね合って、理解したことを伝えたりする技能を身に付けている。</p> <p>(活動の観察) (ワークシート)</p>
4	<p>○お互いの趣味や習慣についてスピーチしたり、聞き取ったりし、さらにインタビューして分かったことを整理して書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを他の人に伝えるために、友達の趣味や習慣についてインタビューする。 ・わかったことを整理し、スピーチするためのメモを作成する。 	・	・	<p>思-① 家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。</p> <p>(活動の観察)</p> <p>態-① 家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。</p> <p>(活動の観察)</p>
5	<p>○お互いにどのような人か、スピーチややり取りをして分かったことを整理してスピーチ原稿を書いたり、スピーチの練習をしたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達について、更に知りたいことをインタビューする。 ・友達の隠れた魅力を聞き出すように伝える。 ・友達のさらに良い面を聞き出すよう留意することを伝える。 ・会話から概要を捉え、追加で得た情報をもとに、整理し、発表にむけたスピーチ原稿を書く。 ・原稿をもとにスピーチの練習をする。 	・		<p>知-① 三人称単数現在形の平叙文の特徴やきまりを理解している。</p> <p>(原稿・ワークシート)</p> <p>1時間に評価するものは、1つか2つ程度とする。</p> <p>2観点設定した場合は、それぞれについて評価規準を記載する。</p>
6	<p>本時</p> <p>○友達の隠れた魅力をクラスのメンバーに伝えるために、ペアでスピーチの練習をする。</p> <p>本時の表示を太字で記載する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とペアになっている友達について、まとまりのある文でスピーチをする。 ・スピーチの様子をお互いにタブレット端末で録画する。 ・スピーチについてペアでアドバイスし合う。 ・アドバイスや録画を確認して、自分のスピーチを振り 	・	○	<p>思-① 家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。</p>

		<p>返り、本番にむけ修正する。</p>			<p>(活動の観察) (タブレット端末の録画記録)</p> <p>態－① 家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。 (ワークシート) (活動の観察) (タブレット端末の録画記録)</p>
7	<p>○クラスのメンバーにむけて発表する。</p>	<p>・前回の友達からのアドバイスや、録画を確認した際の修正点をふまえ、相手意識をもって話すよう伝える。 ・単元全体の振り返りをする。</p>	○	○	<p>思－① 家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。 (活動の観察)</p> <p>態－① 家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。 (活動の観察・録画) (ワークシート)</p>

本時において「付けたい力」がついた生徒の姿を想定して、できるだけ具体的な言葉にして記す。

「7 単元の指導・評価計画」の該当する時間と整合させる。

8 本時の指導 (6 / 7)

(1) 目標

- ・ペアになっている友達についてクラスのメンバーに知ってもらうために、やり取りをして知った事実や自分の考えを整理して、まとまりのあるスピーチをする。

(2) 実現状況を判断する際の具体的な生徒の姿と、目標実現を目指すための手だて

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した生徒への具体的な手だて
思・判・表	友達のことをクラスのメンバーに知ってもらうために、知った事実について、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて聞き手に伝わっているか確認しながら、まとまりのあるスピーチをしている。	友達のことをクラスのメンバーに知ってもらうために、知った事実について、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのあるスピーチをしている。	定型文が書かれているカード（日本語を添えて）や、穴埋め式のスピーチカードを確認してスピーチをするようアドバイスを する。
態度	友達のことをクラスのメンバーに知ってもらうために、知った事実について、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて聞き手に伝わっているか確認しながら、まとまりのあるスピーチをしようとしている。	友達のことをクラスのメンバーに知ってもらうために、知った事実について、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのあるスピーチをしようとしている。	範読したものを復唱させたり、生徒の状況によっては別で録画したりするなどし、対応する。 手だてを具体的に記載する。

指導計画に設定した評価の観点を記載する。
2観点ある場合はそれぞれについて記載する。

単元目標や指導・評価計画、評価規準と一貫性・整合性をもたせる。評価計画の本時と同じ文言でもよい。

評価欄の記号及び記述について

- ・評価の観点は、次のように記載する。[知 思 態]
- ・ () には、どのような方法で評価するのかを記入する。

(3) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点	評価 (観点・場面・方法)
導入	1 あいさつをする。 ・簡単な英語の質問に答える。	・天気・時刻・日付・曜日等を尋ねる。	
展 開	2 本時のねらいと活動内容の説明を聞く。	・前時の内容を踏まえ、これから行うことをイメージしやすいように具体的に伝える。	課題は絞り込んで、生徒にわかりやすく具体的な言葉で記述する。
	3 自分のペアの前でスピーチをする。	・友達の隠れた魅力が伝わる内容となるよう留意する。 ・教師とALTでモデルを見せる。 ・タブレット端末でスピーチを録画させる。 ・ALTとともに机間指導をし、表現を工夫していたり、まとまりのある文でスピーチをしていたら褒めたり、アドバイスをしたりする。 ・まとまりのある文でスピーチしていた生徒を紹介して、イメージを共有できるようにする。	思 -① 家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。 (活動の観察) (タブレット端末の録画記録) <手だて> 定型文が書かれているカード

クラスの人に、ペアの友達の隠れた魅力について伝わるようにスピーチをしよう。

「努力を要する (C) と判断した生徒への具体的な手だて」をこの欄に書く。

	<p>4 ペアでお互いにアドバイスをする。</p> <p>5 アドバイスをうけて、スピーチの修正をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良い点だけでなく、表情や抑揚など、より相手に伝わるようなスピーチにするためにどうしたらよいか、具体的にアドバイスをするよう伝える。 ・アドバイスや録画した自分のスピーチの様子を確認し、より相手に伝わるようにするにはどうしたらよいか、改善するよう伝える。 ・改善点を踏まえ、本番に向けて練習してよいことを伝える。 	<p>(日本語を添えて) や、穴埋め式のスピーチカードを確認してスピーチをするようアドバイスをする。</p> <p>態①</p> <p>家族や友達のことをクラスのメンバーへ伝えるために、趣味や習慣など知り得た事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。</p> <p>(活動の観察)</p> <p>(タブレット端末の録画記録)</p> <p>〈手だて〉</p> <p>範読したものを復唱させたり、生徒の状況によっては別で録画したりするなどし、対応する。</p>
<p>まとめ</p>	<p>6 本時のねらいが達成できたか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに記入する。 ・ワークシートと振り返りシートを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいが達成できたかについて、生徒に振り返らせる。 ・生徒から提出されたシートに、アドバイス等を記入した上で発表前に返却しフィードバックできるようにする。 	

中学校 第3学年 理科 学習指導案 (例)

〇〇立〇〇中学校
指導者 〇〇 〇〇 印

- 1 日 時 令和〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時 (〇 : 〇〇 ~ 〇 : 〇〇)
2 学年・組・場所 第3学年〇組 (〇〇名) 理科室
3 単 元 名 「太陽系と恒星 (月や金星の運動と見え方)」

教科によっては、単元ではなく題材の場合もある。

(1) 単元観では、この単元で何を学ぶのか、何ができるようになるのか、その教育的価値や位置づけ、教師の捉えを書く。これらについて学習指導要領を根拠とし、その該当箇所を明らかにして記述する。

- 4 単元について
(1) 単元観

本単元については、学習指導要領において、次の事項を身に付けることができるよう指導すると示されている。

(6) 地球と宇宙

身近な天体の観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(イ) 太陽系と恒星

㊦ 月や金星の運動と見え方

月の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、月の公転と見え方を関連付けて理解すること。また、金星の観測資料などを基に、金星の公転と見え方を関連付けて理解すること。

イ 地球と宇宙について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

さらに、内容の取り扱いとして、『「月の公転と見え方」については、月の運動と満ち欠けを扱うこと。その際、日食や月食にも触れること。また、「金星の公転と見え方」については、金星の運動と満ち欠けや見かけの大きさを扱うこと。』とされている。

月や金星の運動と見え方について、小学校では、第6学年で、月の形の見え方が太陽と月の位置関係によって変わることについて学習している。ここでは、月が約1ヶ月周期で満ち欠けし、同じ時刻に見える位置が毎日移り変わっていくことを、月が地球の周りを公転していることと関連付けて理解させたい。また、資料などから、金星の見かけの形と大きさの変化を、金星が地球の内側の軌道を公転していることと関連付けて理解させたい。

(2) 生徒観は、(1) 単元観に記載した内容を指導するにあたっての生徒の実態把握である。これまでにどのような力を付けてきたのか、今どのような力が足りないのかなど、本単元で付けたい力に関わる生徒の状況をできるだけ具体的・客観的に記述する。必要があれば、事前にアンケート・小テスト等の調査をしてもよい。

(2) 生徒観

生徒に実施した事前アンケートでは、「理科が好き」や「どちらかといえば好き」と感じている生徒は89%いる。しかし、その中で、地学が「好き」「どちらかといえば好き」という生徒は37%と低く、4つの領域の中で最も苦手意識を抱えていることがアンケート結果から分かった。

また、その地学分野の中でも、今回行う単元の「天体」について、次のとおり事前アンケートを行った。

◇理科の領域別「好き」「どちらかといえば好き」

生物	85.3%
化学	60.0%
物理	41.1%
地学	37.2%

◇天体の学習に興味があるか

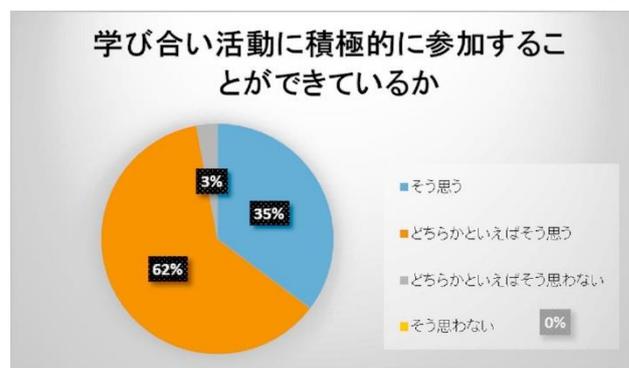
そう思う	32.4 %
どちらかといえばそう思う	47.1 %
どちらかといえばそう思わない	14.7 %
そう思わない	5.9 %

◇天体を理解するのはむずかしいと思う

そう思う	26.3 %
どちらかといえばそう思う	47.4 %
どちらかといえばそう思わない	18.4 %
そう思わない	7.9 %

上記アンケートから、天体に興味・関心がある生徒はおよそ 80%、また苦手意識を感じている生徒は、およそ 74%という結果となった。

苦手意識を持つ要因として、本単元は具体的なイメージが持ちづらいということが考えられる。また、話し合い活動に積極的に参加することができるかという質問では、91%の生徒が「積極的に参加することができる」や「どちらかといえば積極的に参加することができる」と回答している。日頃の授業の様子からも、生徒同士の学び合いは意欲的・積極的に行われている。「生徒同士の学び合い」を意識した活動を多く取り入れ、生徒が苦手意識を克服できるようにしていきたい。



(1) 単元観と (2) 生徒観をふまえ、この単元の学習をとおして生徒に「付けたい力」を付けるための具体的な手だてや工夫について記述する。

(3) 指導観

本単元は、授業時間の中で、月や金星を直接観察することが難しく、また「月や金星の公転」、「地球の公転や自転」の遠方からの視点（俯瞰的視点）と、地球から見た視点を切り換えながら考えることが求められ、生徒にとっては具体的なイメージを持ちにくい単元と言える。

また、新月、三日月、半月、満月など、月の見え方が変わることは、生徒は経験として理解しているが、月の運動と見え方について、日没直後の月の位置と形を継続的に観察するように促していきたい。

また、金星の見え方を観察した経験がある生徒はごく少ない。宵の明星や明けの明星など、生徒にとって比較的馴染みのある言葉を手がかりとしながら、生徒の興味や関心を引き出していきたい。

さらに、太陽と月、金星モデル実験を取り入れたり、様々な資料画像やシミュレーションソフトを用いて視覚化したりすることで、生徒にイメージがつきやすくなるよう工夫していきたい。

学習指導要領の文言を踏まえて、単元等に合わせた言葉で記述する。指導書の文言を丸写しにせず、育てたい資質・能力の三つの柱から「4. 単元について」に沿って目標設定をする。

5 単元目標

- (1) 太陽と月、金星、地球の運動と位置関係を関係づけながら、月や金星の見え方、日食や月食のしくみについてモデル実験等を行い、理解できる。
- (2) 身近な天体である月や金星の運動と地球からの見え方について、モデル実験等に進んで関わり、その理由を科学的に考え、説明できる。

単元目標を実現できたと判断する生徒の具体的な姿を書く。

「挙手の回数が多い」や「忘れ物が多い」などの形式的態度を評価するものではない。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①太陽と月、金星の運動に関する特徴に着目しながら、月や金星の運動と見え方について理解している。 ②科学的に探求するために必要なモデル実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	①月や金星の地球からの見え方が日付や時刻とともに変化する理由を、衛星や惑星の公転と関連づけて考え、表現するなど科学的に探求している。 ②月と金星の運動や見え方について、モデル実験を行い、その結果や資料を分析し解釈している。	①月の満ち欠けや金星の見かけの姿や大きな変化などに関して、科学的に探求しようとしている。 ②観察やモデル実験などに進んで取り組み、結果を基に課題を解決しようとしている。

・次の①から③の内容をすべて含め、単元の目標や単元の学習内容に応じて、その組合せを工夫する。なおく（ ）内の言葉は例である。
 ①粘り強さ〈積極的に・進んで・粘り強く 等〉
 ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって・学習課題に沿って・今までの学習を生かして 等〉
 ③他の2観点において重点とする内容

ここでは、「学びに向かう力、人間性等」のうち、観点別で見取ることができる「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

単元目標や指導計画のねらい・評価規準と一貫性・整合性をもたせる。

7 単元の指導・評価計画（7時間扱い）

観点別に【○】や【・】を付けることで、単元全体の指導と評価のバランスを確認できる。

単元を進める中で、記録として残す場面の評価と、指導の振り返りに生かすための評価の場面を計画的に設定する。

【○】 記録に残す評価 【・】 指導に生かす評価

時	ねらい	学習活動	知	思	態	評価規準
1	○本単元で付きたい力等を知り、単元全体の見通しを持つ。 ○月や金星の見え方が日付や時刻とともに変化することを理解する。	・小学校での学習を基に、月が光って見える理由や、月の形や見え方が、日付や時刻とともに変化することを復習する。 ・写真やシミュレーションで金星の見かけの形や大きさが変化することを理解する。 ※月や金星の様子を観察を行う。(家庭学習の課題)	・			知一① ・月や金星の見え方が日付や時刻とともに変化することを理解している。(ワークシート・天体の観察記録) 態一① ・月や金星の見え方が日付や時刻とともに変化する理由について、単元全体の学習をとおして、明らかにしたいと思っている。(ワークシート・天体の観察記録)

具体的な学習活動について、生徒の立場から記述する。

「6 単元の評価規準」よりも、さらに具体的に記述する。

2 観点設定した場合は、それぞれについて評価規準を記載する。

	○太陽、地球、月の位置関係と月の見え方について、モデル実験を行うことができる。	・太陽、地球、月の位置関係と月の見え方について、モデル実験を行う。	○		知一② ・月の見え方について、太陽と地球、月の位置関係を関連づけて理解し、モデル実験を行っている。 (活動の観察・ワークシート)
	○月の見え方の変化を、太陽と地球、月の位置関係と関連づけて考えることができる。	・モデル実験を基に、月の見え方を、月が地球の周りを公転していることと関連づけて考える。 ・月の見え方の変化について小グループごとに考えを交流し、課題の解決を図る。	○		思一① ・月の見え方を、地球の自転や、月の公転と関連づけて考え、表現している。 (活動の観察・ワークシート) 態一② ・前時のモデル実験の結果を基に月の見え方の変化について考えを交流し、課題を解決しようとしている。 (活動の観察、ワークシート)
4	○月の見え方での学習を生かして、日食、月食の起きる仕組みを考え、説明することができる。	・月の満ち欠けと月食や日食の違いについて、モデルを用いて表現する。	○		思一② ・前時のモデル実験の結果を生かし、日食や月食について、太陽と地球、月の位置関係のモデルを用いて考え、説明している。 (活動の観察・ワークシート)
5 本時	○太陽、地球、金星の位置関係と金星の見え方についてモデル実験を行うことができる。	・太陽、地球、金星の位置関係と金星の見え方について、モデル実験を行う。	○		知一② ・金星の様々な見え方について、地球との位置関係の変化と関連づけて、モデル実験を行っている。 (活動の観察・ワークシート)
	本時の表示を太字で記載する。				
6	○金星の見え方の変化を、太陽と地球、金星の位置関係と関連づけて考えることができる。	・モデル実験を基に、金星の見え方を、金星が内惑星として、太陽の周りを公転していることと関連づけて考える。	○		思一① ・金星の見え方を、太陽や金星、地球の位置関係や、金星の公転と関連づけて考え、表現している。 (活動の観察・ワークシート・後日ペーパーテスト)

		<ul style="list-style-type: none"> 金星の見え方の変化について小グループごとに考えを交流し、課題の解決を図る。 			○ 態一② <ul style="list-style-type: none"> 前時のモデル実験の結果を基に金星の見え方の変化について考えを交流し、課題を解決しようとしている。(活動の観察、ワークシート)
7	<ul style="list-style-type: none"> 内惑星、外惑星の地球から見た見え方について太陽系の構造と、月や金星の見え方での学習を生かして考えている。 月の満ち欠けや月食、金星の満ち欠けなどについて、振り返り、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 月や金星の見え方での学習を生かして、太陽系の他の惑星の運動と見え方について考える。 小グループごとに考えを交流するとともに、単元のまとめに取り組む。 	○	○	態一① <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かして、月や惑星の運動と見え方について考え、理解を深めようとしている。(単元を通しての活動の観察、ワークシート) 知一① <ul style="list-style-type: none"> 単元の学習内容を整理し、理解している。(ワークシート、ペーパーテスト)

「思考・判断・表現」・「主体的に学習する態度」は後半にかけての高まりが予想されるので、終盤に【○】の評価の機会として設定する。

8 本時の指導 (5 / 7)

本時において「付きたい力」が付いた生徒の姿を想定して、できるだけ具体的な言葉にして記す。
「7 単元の指導・評価計画」の該当する時間と整合させる。

(1) 目標

- 金星の様々な見え方について地球との位置関係の変化と関連づけて、モデル実験を行うことができる。

手だてを具体的に記載する。

(2) 実現状況を判断する際の具体的な子どもの姿と、目標実現を目指すための手だて

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した生徒への具体的な手だて
知識・技能	遠方からの視点と地球から見た視点を意識し、モデル実験を行い、金星の見え方を確認している。	金星の様々な見え方について地球との位置関係の変化と関連づけて、モデル実験を行っている。	月の見え方を参考に、金星モデルの光が当たる部分と当たらない部分の境界線に着目させる。

指導計画に設定した評価の観点を記載する。2 観点ある場合は、それぞれについて記載する。

単元目標や指導・評価計画、評価規準と一貫性・整合性をもたせる。評価計画の本時と同じ文言でもよい。

(3) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価 (観点・場面・方法)
導入	1 前時の復習を行うとともに本時に必要とされる用語等の確認を行う。	・生徒が自主的に復習や用語の確認ができるように、学び合いの時間を設定する。	課題は絞り込んで、生徒にわかりやすく具体的な言葉で記述する。
展開	モデル実験を行い、金星の見え方について説明できるようになる。		
	2 本時のねらいや活動を 確認する。 3 モデル実験を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・月の満ち欠けのモデル実験の経験を想起させるよう働きかけを行う。 ・活動内容及び流れ、モデル実験の方法、課題を確認する。 ・課題は次の時間も使って取り組んでいくことを伝える。 ・光源装置及び金星に見立てたピンポン玉を用いて、地球から見た金星の様子をワークシートに記録する。 ・グループごとにモデル実験の結果について確認をする。 ・結果に自信が無い場合など、グループにこだわらずに教え合うように伝える。 	<p>「おおむね満足できる (B)」をこの欄に書く。</p> <p>知</p> <p>金星の様々な見え方について地球との位置関係の変化と関連づけて、モデル実験を行っている。 (活動の観察・ワークシート) 〈手だて〉 月の満ち欠けのモデル実験と同様であることを伝えるとともに、ピンポン玉の明暗の境界に着目させる。</p>
終末	4 まとめをする。	・モデル実験の結果を基に、金星の見え方について、地球との位置関係に着目しながら整理するように伝えるとともに次時の学習内容について伝える。	「努力を要する (C) と判断した生徒への具体的な手だて」をこの欄に書く。

評価欄の記号及び記述について

- ・評価の観点は、次のように記載する。[**知** **思** **態**]
- ・ () には、どのような方法で評価するのかを記入する。
例 (発言・観察) (ワークシート) 等